

4 今後の進め方

(1) まちづくりの取組について

ア 分野別、時期別の取組

今後のまちづくりの取組例と時期別の取組のイメージは次のとおりです。

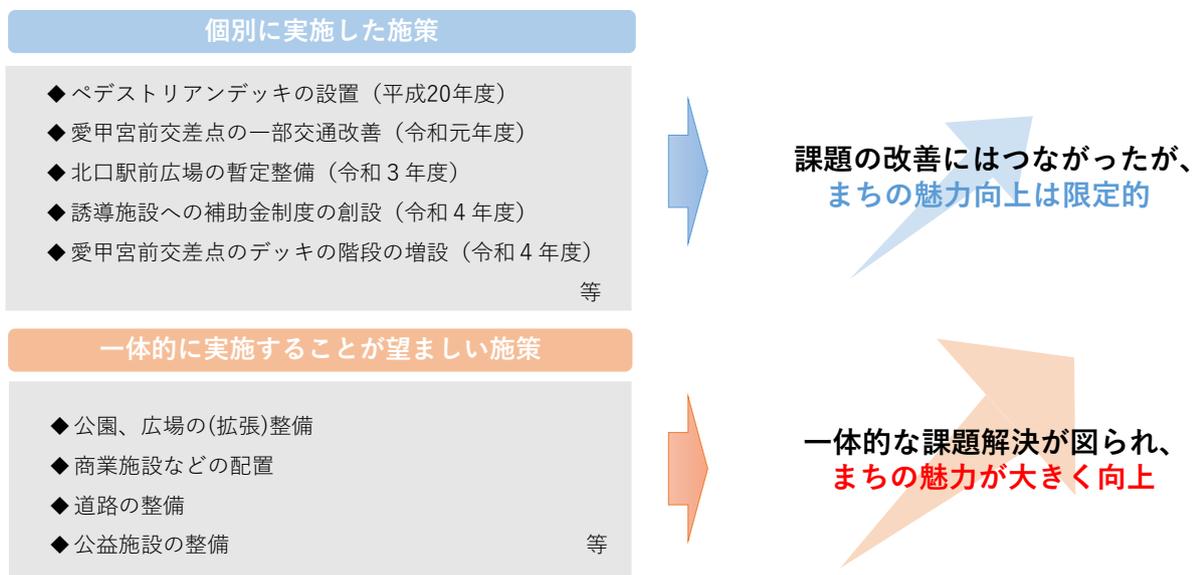
項目	短期（～5年）	中期（～10年）	長期（～20年）	主なまちづくりの担い手						取組例
				市民	行政	周辺企業	民間事業者	交通事業者	道路管理者	
土地・建物利用										
① 地域の人、働く人、訪れる人を支える土地・建物利用の促進										
● 駅周辺の魅力を高める施設の立地誘導	継続				●		●			都市機能誘導施設への補助金 等
● まちづくりにあわせた公共施設の適正配置の検討	検討・計画	公共施設の配置（必要に応じて）				●				公共施設の配置(再配置)
● 面的整備等によるまちづくりの検討	機運づくりなど	合意形成	工事など	●	●	●	●	●	●	市街地再開発事業、土地区画整理事業 等
② まちづくりが起きやすい環境づくり										
● まちのニーズ等にあわせた計画検討	調査・検討	変更・策定	継続	●	●					都市計画の変更、地区計画*の策定 等
● まちづくりの機運づくり	開催・発足	継続			●	●	●	●	●	勉強会などの開催、協議会の発足 等
道路										
① 駅へのアクセス性を高める道路づくり										
● 愛甲宮前交差点を中心とした道路の改良	検討・調整・整備				●				●	車線の増設 等
● 駅周辺の道路ネットワークの整備	調査・検討	調整・整備				●		●	●	新たな道路ネットワークの検討
● ソフト対策の推進による交通混雑の改善	啓発等	継続			●	●	●		●	マイカー通勤の抑制、時差通勤の促進 等
② 安全で快適な歩行空間の創出										
● 壁面後退などによるゆとりある歩行空間の創出	調査・検討	調整・整備・壁面線の指定など			●	●		●	●	壁面後退、歩道整備
● デッキ等による利便性の向上	調査・検討	調整・整備				●			●	デッキの改良、新設
● 駅周辺のバリアフリー化の推進	調査・検討	調整・整備						●	●	駅周辺のバリアフリー化
● 生活道路等の整備	継続			●					●	生活道路等の整備
公共交通・駅前広場										
① 公共交通の利用環境の向上										
● 需要にあわせた安全で快適な駅空間の整備	調査・検討	調整・整備				●		●		南口臨時改札の設置、駅舎の改修 等
● 駅前広場での公共交通と一般車のすみわけ	調査・検討	調整・整備				●		●	●	公共交通と一般車乗降場の分離
② 駅とまちをつなぐ快適な駅前広場の整備										
● 必要な駅前広場面積の確保	調査・検討	調整・整備				●		●	●	駅前広場の整備
● 送迎バス乗降場の集約化	調査・検討	調整・整備				●	●	●	●	送迎バス乗降場の整備
景観・みどり										
① 公園・広場などの潤いある滞留・交流空間の創出										
● 公園・広場などのオープンスペースの充実	調査・検討	調整・整備				●		●		オープンスペースの整備
② 駅周辺のみどりの充実と地域資源の活用										
● 駅周辺の屋上緑化などの促進	継続			●	●	●	●			屋上緑化の促進 等
● 駅周辺のみどりの充実と維持管理	調査・検討	継続			●	●		●		市民協働による植栽等の維持管理の検討 等
● 地域資源をいかしたまちづくりの検討	調査・検討	継続			●	●				地域資源の保存と発信 等
防災										
① 駅周辺の安全な滞留空間の確保										
● 災害時に利用できる安全な広場等の整備	調査・検討	調整・整備				●				広場等の整備
● 周辺企業との連携強化による一時滞在場所の確保	継続				●	●				一時滞在場所の継続的な確保
② 災害に強いまちづくりの促進										
● 災害時に対応できる都市基盤の強化	継続				●				●	狭あい道路の整備、防災備蓄倉庫の確保 等
● 災害に強い建物づくり	継続			●	●	●	●			耐震診断、耐震改修に対する補助金 等
● 無電柱化の推進	継続						●		●	無電柱化の推進

イ まちづくりの考え方

将来像を実現するため、まちづくりの様々な施策を進めることが重要ですが、施策によっては個別で実施できるものもあれば、難しいものもあります。

市もこれまで愛甲石田駅周辺のまちの課題を改善するため、様々な施策を行ってきましたが、個別で実施できるものには限りがあり、効果も限定的であるため、抜本的なまちの魅力向上は難しい状況です。

そのため、個別にできる施策は進めつつ、将来像の実現に向けては、より多くの課題を改善し、まちの魅力向上につながる、一体的に整備する手法である面的整備について検討していきます。



施策の方法	施策の例	事業の完了時期	メリット・デメリット	
施策を個別に実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誘導施設への補助金制度 ・ ペDESTリアンデッキの改良 ・ 駅前広場の整備 ・ 公園や広場での植栽 ・ 一時滞在施設の確保 など	短期～長期※	メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的短期間で実施が可能 ・ 関係者が少なく、単独で実施が可能
			デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果が限定的である ・ まちとしての統一感が出しづらい
施策を一体的に実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地再開発事業 ・ 土地区画整理事業 など	長期※	メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一体的な課題解決が図れる ・ 建物所有者などの生活再建が図れる ・ さまざまな相乗効果が期待できる
			デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合意形成に十分な時間が必要

※ 短期：～約5年 長期：～約20年

(2) 今後の進め方について

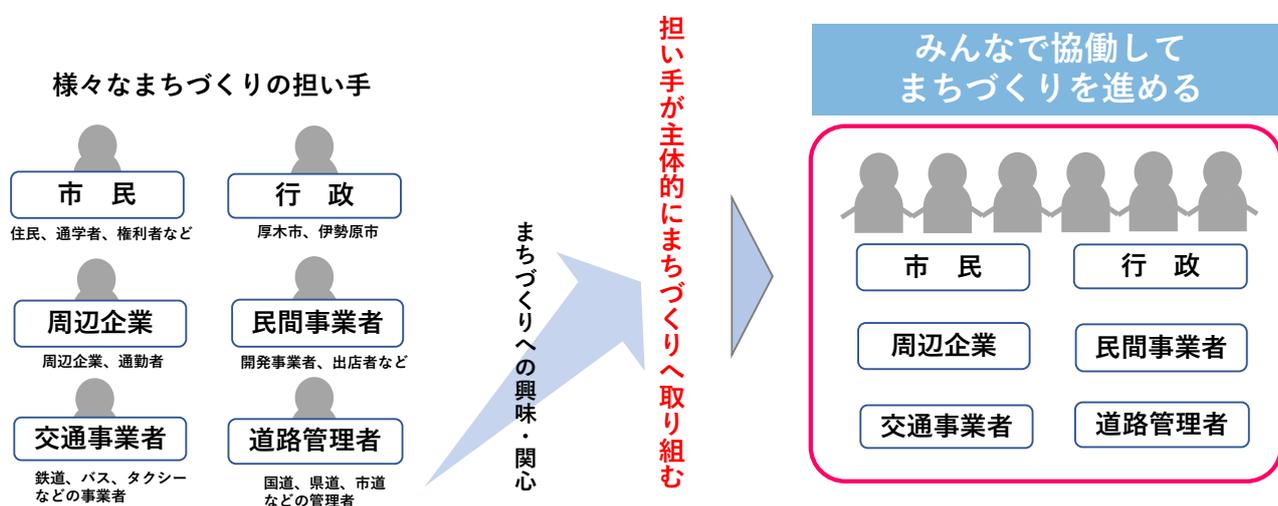
『まちづくりの担い手を育て、協働によるまちづくりへ』

まちづくりは、誰か一人が頑張っても、より良いまちづくりにならなかったり、実現しなかったりすることもあることから、様々な担い手が協力し合って進めていくことが重要です。

行政（市）だけでなく、それぞれの担い手が、自分たちでできるまちづくりを進めることが必要です。

まちの課題を共有したり、まちづくりの手法を一緒に勉強することで、興味を持ってもらい、それぞれの担い手が主体的に行動できるよう担い手を育てる取組を進めていきます。

担い手を育てる取組の後は、みんなが協働してまちづくりを進めていきます。



『まちづくり施策の検討・推進』

まちづくりの施策は、個別で効果が生まれるものもあれば、一体的に行うことが望ましいものもあることから、各施策の実施手法について検討します。

施策のうち、個別で効果が生まれる施策は、できるところから順次進めていきます。

個別実施にあたっては、関係者との調整を十分に図りながら、将来像の実現に向け、より効果的な施策の実施を検討します。

個別での実施が難しいもの、いくつかの施策を一体的に実施することで相乗効果が生まれ、より良いまちづくりにつながるものについては、面的整備の実現に向けて検討します。

面的整備は、市民、周辺企業、民間事業者などのまちづくりの担い手とともに、より多くの課題を解決し、まちの魅力が向上するように進めていきます。